

第3回全県模試を終えて

夏の終わりに受けていただきました第3回全県模試が返ってきました。この第3回全県模試の結果は、中1、中2にとっては今現在の実力を計り今後の課題を明確にしていくためのものとなり、中3にとってははいよいよ受験校を絞っていくための一つの指標になります。

毎回のことではありますが、今回もやはりポイントとなるのは「国語力」でした。塾での指導の中心となるのは英語、数学です。中3こそ理科、社会、国語も週に1回ずつ授業を行い、夏と冬には受験特訓を行いますが、中1、中2は一ヶ月に2、3度の「理社国」授業（自主的に勉強を進め確認テストを受けていくもの）があるだけで、英語や数学のような一斉講義スタイルの授業はありません。従いまして中1、中2に関しましては、全県模試における英語、数学の結果は良くも悪くも塾指導の影響が及んでいますが、理科、社会の結果は本人がいかに関面に勉強してきたかを表し、国語の結果はそのまま本人の実力を表していると言えます。国語は初めて読む文章の読解ですので、定期テストのように対策のしようがないからです。

今回、別紙「模試塾内結果」にも掲載しておりますが、中1において全県との平均点差が英語、数学は20点台、理科、社会が10点台、国語が一桁（いずれも当塾生が上）ということでした。中2においては英語が20点台、数学、理科、社会が10点台で、国語は中1と同様に一桁でした。英語、数学は高い偏差値を取れているのに、国語でガクンと偏差値を落としている塾生のなんと多かったことか。思考というものは頭の中、言葉でなされるため、国語力はまさに思考力に直結しているとも言えます。英語も中1、中2の間は文法さえしっかり理解出来ていれば点数はとれますが、中3になると長文読解や書き換え（同じような意味でも表現を変える）に国語力のなさが響いて点数がとれなくなってくることも多々あります。理科も社会も問題文が複雑になれば問題の意図がつかめません。それ以前に文字や問題文を正確に読まない、最後まで読まない、という子もかなりの割合でいますが、これも国語力不足が原因です。どんなに勉強してもこれでは点数に結びつきません。国語力は全ての教科の土台なのです。

生まれてから今日まで日本語のシャワーを同じように浴びてきているにも関わらず、国語力には一人一人差があります。10年以上培われてきて今に至るものですから、一朝一夕に劇的に伸びることはほぼ不可能と置いてください。それでも自分自身が生活の中で言葉や文を意識することを毎日続ければ少しずつでも上達することもまた事実です。中3は今回、国語の平均点は全県平均点より19.3点上でした。2年前は2.7点上に過ぎなかったのに、です。